

SL200

ユーザーマニュアル

もくじ

1 はじめに.....	1
1.1 特長.....	1
1.2 パッケージの内容	2
1.3 各部名称.....	2
1.3.1 フロントパネル.....	2
1.3.2 リアパネル	3
1.4 システム条件.....	3
1.5 取り付けにあたって	4
2 PC 構成	5
2.1 TCP/IP ネットワーク設定.....	5
2.1.1 Windows 9x/ME の TCP/IP 設定	5
2.1.2 Windows NT4.0 の TCP/IP 設定	7
2.1.3 Windows 2000 の TCP/IP 設定	9
2.1.4 Windows XP の TCP/IP 設定	10
3 ブラウザでルータを設定	12
3.1 Web ブラウザを起動	12
3.2 Wizard	13
3.3 System	15
3.3.1 System Status	15
3.3.2 System Settings.....	16
3.3.3 Administrator Settings.....	17
3.3.4 Firmware Upgrade	18
3.3.5 Configuration Tools	19
3.3.6 System log	19
3.4 WAN.....	20

3.4.1 Connected Type	20
3.4.2 Dynamic IP	21
3.4.3 Static IP	22
3.4.4 PPPoE (PPP over Ethernet)	23
3.4.5 PPTP (Point-to-Point Tunnel Protocol)	24
3.4.6 L2TP	26
3.4.7 DNS	27
3.5 VPN (仮想プライベートネットワーク)	28
3.5.1 Tunnel	28
3.5.2 IKE Parameters	29
3.6 LAN	31
3.6.1 LAN Setting	31
3.6.2 DHCP Client List	32
3.7 NAT	33
3.7.1 Virtual Server	33
3.7.2 Special Application	34
3.7.3 Port Mapping	36
3.7.4 ALG (Application Layer Gateway)	36
3.7.5 DMZ (Demilitarized Zone)	37
3.8 Firewall (ファイアウォール)	38
3.8.1 Firewall Options	38
3.8.2 Access Control	39
3.8.3 URL Filtering	41
3.8.4 MAC Control	42
3.9 Routing (経路設定)	42
3.9.1 Routing Table	42
3.9.2 Static Routing	43
3.9.3 Dynamic Routing	44
3.10 UPnP (Universal Plug and Play)	45

3.10.1 UPnP Setting	45
3.10.2 UPnP Port Mapping	45
3.11 DDNS	46
3.11.1 DDNS (Dynamic DNS)	46
3.12 ヘルプインフォメーション	47
3.13 Logout (ログアウト)	48

Chapter 1. はじめに

この度は ASUS SL200 ルーターをお買い上げいただき、ありがとうございます。この高品質で、信用性の高いインターネットルータは、ケーブルや DSL モデムを通じ、複数のユーザーでインターネット接続を共有することが可能です。また、ルータを取り付けるだけで、Cable/DSL モデムに接続し、インターネット接続が可能です。ルータ以外にも、10/100Mbps 4 ポート Ethernet スイッチとして機能し、全てのポートが MDI/MDIX に対応することで、CAT5 ケーブルが使用可能ですので、他のルータ / スイッチにアップリンクできます。本製品は小規模、中規模のビジネス、小規模なオフィス / ホームオフィス (SOHO) に対応するトータルソリューションを提供し、即座に今日のネットワークを構築できるとともに、今後の技術革新にも対応可能な製品となっています。

1.1 特徴

- 3 ステップ簡単セットアップウィザード
インターネットの共有が 3 つのウィザードで簡単に設定できます。
- ユーザーフレンドリーな Web Graphical User Interface
ASUS 独自のフレンドリーなユーザーインターフェースなら、セットアップも簡単。
- DHCP サーバサポート
要求に応じて、ダイナミックに IP アドレスを PC と他のデバイスに提供。お使いの LAN の各デバイスに応じて DHCP サーバとして機能します。
- Multi DMZ ホストサポート
お使いの LAN 上の PC 一台を、サーバ、個人ユーザー間双方向での無制限のコミュニケーションが可能。
- PPTP と PPPoE のサポート
インターネット (WAN ポート) 接続で、「Direct Connection」タイプのサービスはもちろん PPPoE (PPP over Ethernet) と PPTP (Point-to-Point Tunnel Protocol) をサポートします。

1.2 パッケージの内容

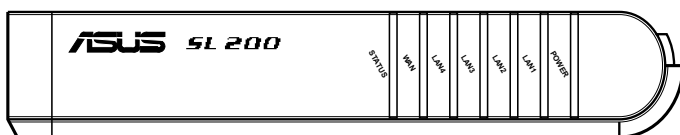
このマニュアル以外には、以下のアイテムが含まれています。

- SL200 ルーター
- DC 外部アダプター
- CD（他言語ユーザーマニュアルを含む）

1.3 各部名称

1.3.1 フロントパネル

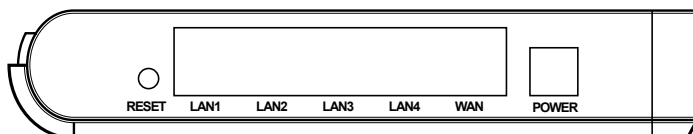
フロントパネルのLED インジケーターはユニットの状態を表示します。



LED	カラー	状態	説明
Power	グリーン	ON	SL200 がオン
		OFF	SL200 がオフ
LAN (1-4)	グリーン	ON	リンク確立
		点滅	リンクが確立、データの送受信中
WAN	グリーン	ON	リンク確立
		点滅	リンクが確立、データの送受信中
Status	グリーン	ON	デバイスがハングアップ
		点滅	デバイスがスタンバイ OK

1.3.2 リアパネル

リアパネルにはユニットのデータ用と電源接続用のポートが装備されています。



表示	説明
POWER	電源入力ジャック：DC アダプターに接続。
WAN	WAN ポート：お使いの WAN デバイスに接続。 (ADSL、ケーブルモデム等)
LAN (1-4)	LAN ポート：お使いの PC の Ethernet ポートに接続、または Ethernet ケーブルを使用して LAN のハブ / スイッチのアップリンクポートに接続。
RESET	リセットボタン： 1. 4 秒以上押すと、システム設定を工場出荷状態にリセット。 2. 20 秒以上押すと、デバイスを再起動。

1.4 システム条件

- 1 台または複数の Ethernet インターフェース内蔵の PC（デスクトップ、ラップトップを問わない）。
- TCP/IP プロトコルが全ての PC にインストールされている。
- 有効なインターネットアクセスアカウントと DSL またはケーブルモデム。
- RJ-45 コネクタ付き 10/100BaseT ネットワークケーブル。
- MS Internet Explorer ver. 5.0 以降、または Netscape Navigator ver. 4.7 以降のシステム。

1.5 取り付けにあたって

- 1) ルータと DSL/ ケーブルモデムの電源をオフにします。
- 2) システムをストレート LAN ケーブルでルータの LAN ポートに接続します。
- 3) DSL、またはケーブルモデムをルータの WAN ポートに接続します。
- 4) DSL またはケーブルモデムの電源をオンにし、次に電源アダプターをルータの電源ジャックに接続し、電源ケーブルを出力につなぎます。
- 5) LED のチェック
 - a) ルータの電源を入れると、電源 LED がオンになります。
 - b) アクティブな LAN 接続時、LAN LED がオンになります。
 - c) または ケーブルモデムが接続されると、WAN LED がオンになります。

Chapter 2. PC 構成

ユーザーは SL200 LAN ネットワーク内の各システムに応じた TCP/IP ネットワーク設定、インターネットアクセスの設定を行う必要があります。SL200 ルータは初期設定で DHCP サーバとして動作し、システムが起動すると、自動的に IP アドレスを各システムに割り当てます。クライアントのシステムに対し、固定 IP アドレスを選択する場合は、クライアントシステムのゲートウェイはルータの IP アドレスに、クライアントシステムの DNS はユーザーのプロバイダのアドレスに設定する必要があります。

2.1 TCP/IP ネットワーク設定

2.1.1 Windows 9x/ME の TCP/IP 設定

- a) 「スタート」→「コントロールパネル」→「ネットワーク」に進むと、次のような画面が表示されます。



b) プロパティをクリックすると、次のような画面が表示されます。



- DHCP を使用する場合、「Obtain an IP address automatically」を選択し、「OK」をクリックし、設定を保存します。システムを再起動すると、ルータは IP アドレスを取得します。
 - 固定 IP アドレスを使用する場合は、「Specify an IP address」を選択し、IP アドレスとサブネットマスクが正しいことを確認してください。
- c) 「Gateway」のタブで、「New gateway」の欄に正しいゲートウェイアドレスを入力したら、「Add」をクリックします。

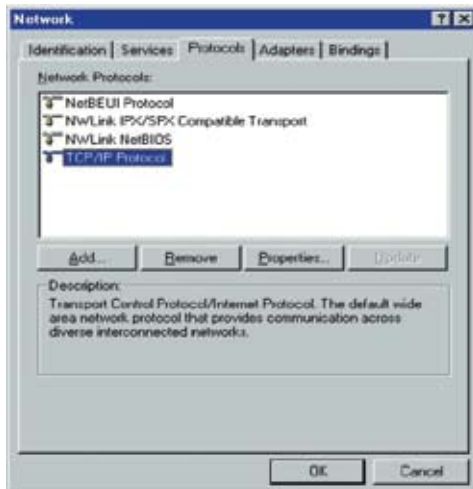


- d) 「DNS Configuration」タブで「Enable DNS」を選び、「DNS Server Search Order」の欄にプロバイダの DNS アドレスを入力したら、「Add」をクリックします。



2.1.2 Windows NT4.0 の TCP/IP 設定

- a) 「コントロールパネル」→「ネットワーク」に進み、プロトコルのタブで「TCP/IP protocol」を選択すると、次のような画面が表示されます。



b) 「プロパティ」をクリックすると、下のような画面が表示されます。



- Adapter の欄から、システムのネットワークカードを選択します。
 - ルータからの IP アドレスを使用する場合は、「Obtain an IP address from a DHCP server」を選択します。
 - 他の IP アドレスを使用する場合は、「Specify an IP address」を選択し、IP アドレスとサブネットマスクの欄にアドレスを正しく入力してください。
 - ルータの IP アドレスは「Default Gateway」として設定します(推奨)。
- c) プロバイダの DNS アドレスを入力するには、「DNS」タブで、「DNS Service Search Order」のリストの下にある Add をクリックし、DNS を入力します。



2.1.3 Windows 2000 の TCP/IP 設定

a) 「スタート」→「コントロールパネル」→「ネットワークとダイヤルアップ接続」に進み、「ローカルエリア接続」を右クリックし「プロパティ」を開きます。



b) システムのネットワークカード用に「インターネットプロトコル (TCP/IP)」を選択し、「プロパティ」をクリックすると、次のような画面が表示されます。



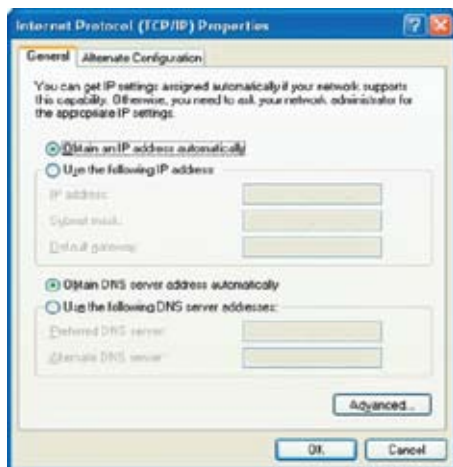
- ・ ルータからの IP アドレスを使用する場合は、「IP アドレスを自動的に取得する」を選択します。
- ・ 他の IP アドレスを使用する場合は、「次の IP アドレスを使用する」を選択し、IP アドレスとサブネットマスクの欄にアドレスを正しく入力します。
- ・ ルータの IP アドレスは「初期設定ゲートウェイ」として設定します(推奨)。
- ・ DNS Server の欄が空欄の場合は、「次の DNS サーバのアドレスを使用する」を選択し、プロバイダの DNS アドレスを入力して、「OK」をクリックします。

2.1.4 Windows XP の TCP/IP 設定

- a) 「スタート」→「コントロールパネル」→「ネットワーク接続」に進み、「ローカルエリア接続」を右クリックして「プロパティ」を開きます。開くと次のような画面が表示されます。



b) 「インターネットプロトコル (TCP/IP)」を選択し「プロパティ」をクリックすると、次のような画面が表示されます。



- ルータからの IP アドレスを使用する場合は、「IP アドレスを自動的に取得する」を選択します。
- 他の IP アドレスを使用する場合は、「次の IP アドレスを使用する」を選択し、IP アドレスとサブネットマスクの欄にアドレスを正しく入力します。
- ルータの IP アドレスは「初期設定ゲートウェイ」として設定します（推奨）。
- DNS Server の欄が空欄の場合は、「次の DNS サーバのアドレスを使用する」を選択し、プロバイダの DNS アドレスを入力して、「OK」をクリックします。

Chapter 3. ブラウザでルータを設定

本製品にはインターネットベースの構成ユーティリティが付属しています。本ルータの LAN 域内のクライアントシステムであれば、どこからでもこのユーティリティへのアクセスが可能です。最高のパフォーマンスを得るため、Microsoft Internet Explorer 5.0 以降、または Netscape Navigator 4.7 以降のものをお使いください。設定を始める前に、以下の項目を確認してください。

- a) プロバイダからの IP アドレスの割り当てが、静的（固定）か動的かを確認します。また静的割り当ての場合は、そのアドレスを確認します。
- b) プロバイダが PPPoE を使用しているかどうかを確認します。使用している場合は、その PPPoE のユーザーネームとパスワードを確認します。

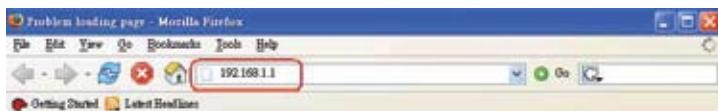
以上の項目で不明な点がある場合は、ご契約のプロバイダにお問い合わせください。

3.1 Web ブラウザを起動

ウェブベースユーティリティを使うには、インターネットブラウザ（MS IE 5.0 以降、Netscape Navigator 4.7 以降のもの）を起動する必要があります。

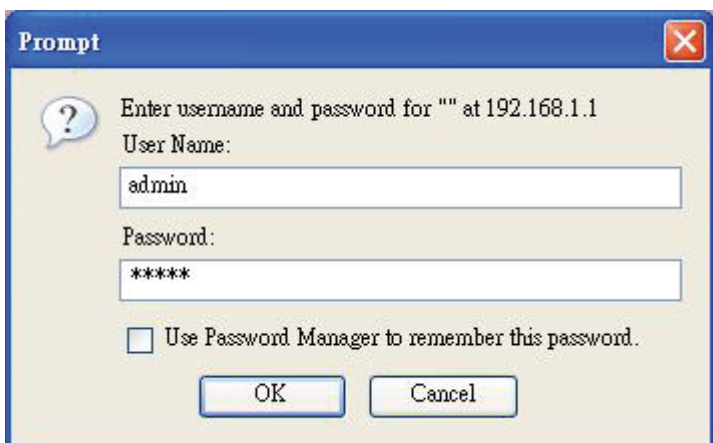
ステップ1:

本ルータの初期設定の IP アドレス「http://192.168.1.1」をアドレスフィールドに入力して、「Enter」を押します。



ステップ2:

ログインダイアログボックスが表示されます。User Nameに「admin」、Passwordに「admin」と入力し、「OK」をクリックしてウェブベースユーティリティにログインします。



3.2 Wizard

ホスト名、ドメイン名、タイムゾーン、サマータイムなど、ルータの基本的な設定を行います。「Next」をクリックして WAN 設定ウィンドウに移ります。



Host Name：プロバイダより提供されたホスト名がある場合は入力してください（初期設定：SL200）。

Domain Name：プロバイダより提供されたドメイン名がある場合は入力してください。

Time Zone：タイムゾーンを設定してください。ルータの時間はここでの設定と同じになります。

Daylight Saving：サマータイムの設定です。この機能をご利用の場合は「Enable」にチェックを入れてください。

Next : 「Next」 をクリックすると WAN 設定ウィンドウへ移ります。

次のウィンドウでは、WAN 接続のタイプ（ケーブルモデム、固定 IP xDSL、PPPoE xDSL など）を特定することができます。「Next」をクリックすると、DNS 設定ウィンドウへ移ります。



Cable Modem : ケーブルモデムに接続する場合は「Cable Modem」をクリックして、MAC のクローン機能の設定をします。(MAC アドレスはプロバイダより提供)

Fixed-IP xDSL : 固定 IP xDSL に接続する場合は、「Fixed-IP xDSL」をクリックして、プロバイダより提供された IP アドレスとゲートウェイアドレスを入力してください。

Dial-Up xDSL (PPPoE) : ダイアルアップ xDSL に接続する場合は「Dial-Up xDSL」をクリックして、プロバイダより提供されたログイン情報を入力してください。

PPTP : PPTP に接続する場合は「PPTP」をクリックして、プロバイダより提供されたログイン情報を入力してください。

L2TP : L2TP を通して接続する場合は「L2TP」をクリックして、プロバイダより提供されたログイン情報を入力してください。

DNS サーバを有効に設定した場合のみ、WAN 構成ウィンドウにて DNS 設定を更新できます。DNS 構成を変更し、「Finish」をクリックすると、DNS 設定を更新します。



3.3 System

ルータの基本的な構成のパラメータ（システム状態、システム設定、管理者設定、ファームウェアの更新、構成ツール、システムログなど）が表示されます。たいいていの場合は初期設定で問題ありませんが、プロバイダは個々に異なるため、プロバイダの要求する設定が不明な場合はプロバイダにお問い合わせください。

3.3.1 System Status

Status 画面には、ルータの LAN インターフェースの接続状態や、ファームウェアやハードウェアのバージョン、ネットワークに接続しているクライアントの数が表示されます。



INTERNET：WAN 接続のタイプと状態を表示します。

GATEWAY：IP 設定、DHCP、NAT、ファイヤーウォール状態を表示します。

INFORMATION：接続しているクライアントの数、ルータのハードウェアやファームウェアのバージョンを表示します。

3.3.2 System Settings

ルータの基本的な設定（ホスト名、ドメイン名、タイムゾーン、サマータイム、NAT など）を設定します。



Host Name：プロバイダより提供されたホスト名がある場合は、入力してください（初期設定：SL 200）。

Domain Name：プロバイダより提供されたドメイン名がある場合は、入力してください。

Set Time Zone：タイムゾーンを設定してください。ルータの時間はここでの設定と同じになります。

Daylight Saving：サマータイムの設定です。この機能をご利用の場合は「Enable」にチェックを入れてください。

NAT：NAT 機能の設定です。

3.3.3 Administrator Settings

パスワードの設定によって、アクセス制限をします。初期設定のパスワードは「admin」です。早めに Administrator でパスワードを設定し、安全な場所に保管してください。

パスワードは、3 ～ 12 の大文字と小文字を区別したアルファベットです。

Administrator Time-Out - 設定した回数、間違ったパスワードを入力すると Administrator へのアクセスを自動的に遮断します。ゼロに設定すると、この機能は無効になります。

Remote Management - 初期設定では、ローカルネットワークからのみの管理が可能です。

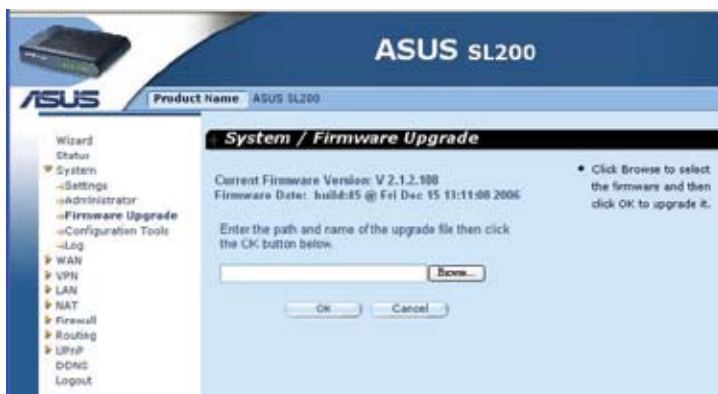
Administrator の IP アドレスを設定することにより、リモートホストからのルータ管理が可能になります。



Password Settings：ウェブベースのマネジメントウェブサイトへアクセスするためのパスワードを選択します。

3.3.4 Firmware Upgrade

新しいファームウェアを検出して更新します。「Browse」をクリックして新しいファームウェアを検索してください。「OK」をクリックすると更新を開始します。



Firmware Upgrade：ルータのファームウェアを更新するためのツールです。更新するにはファームウェアをローカルハードディスクにダウンロードします。Browse ボタンを押すと、パソコン上のファームウェアファイルを検出します。

3.3.5 Configuration Tools

ルータの設定（再起動、工場出荷時の初期設定値、バックアップ設定、リストア設定）。



Restart System：再起動。

Restore Factory Defaults：工場出荷時の初期設定値にリセット。

Backup Settings：設定をファイルに保存。

Restore Settings：Backup Settings にリストア。

3.3.6 System Log

ルータのシステムアクティビティ（システムログ、リモートログ）を表示します。



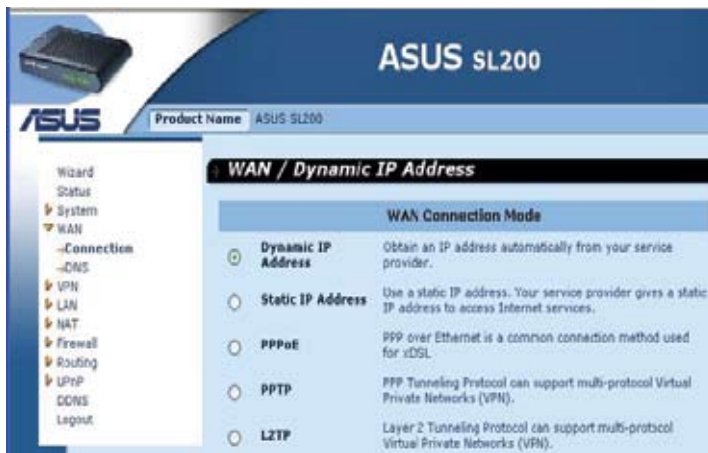
System Log：ルータのシステムアクティビティを表示。

Remote Log Setting：リモートログサーバの IP アドレス設定を表示。

3.4 WAN

3.4.1 Connected Type

プロバイダの規定する WAN 接続のタイプを指定して、「OK」を押すと、詳細設定のパラメータが表示されます。



Dynamic IP Address：プロバイダから自動的に IP アドレスが割り当てられている（動的割り当て）。

Static IP Address:IP アドレスはあらかじめ割り当てられている（静的割り当て）。

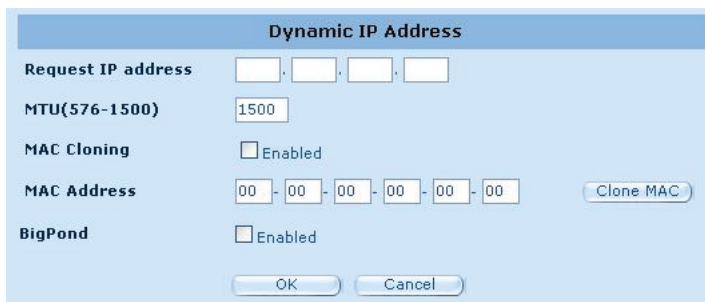
PPPoE：プロバイダが PPPoE 接続を要求。

PPTP：プロバイダが PPTP 接続を要求。

L2TP：プロバイダが L2TP 接続を要求。

3.4.2 Dynamic IP

「Host Name」はオプションですが、プロバイダに要求される場合もあります。MAC アドレスは、ルータ上の WAN の物理インターフェースに設定されています。プロバイダへの登録の際はこのアドレスを使ってください。また、プロバイダに要求されない限り、アドレスの変更はしないでください。「Clone MAC」ボタンでイーサネットカードの MAC アドレスをコピーし WAN MAC アドレスを置き換えることができます。



The image shows a 'Dynamic IP Address' configuration window. It has a title bar with the text 'Dynamic IP Address'. Inside, there are several fields: 'Request IP address' with four empty boxes separated by dots; 'MTU(576-1500)' with a text box containing '1500'; 'MAC Cloning' with an unchecked checkbox and the label 'Enabled'; 'MAC Address' with six text boxes each containing '00' separated by hyphens, and a 'Clone MAC' button to the right; and 'BigPond' with an unchecked checkbox and the label 'Enabled'. At the bottom are 'OK' and 'Cancel' buttons.

Request IP address : クローンしたい IP アドレスを入力。

MTU : 通信パケットの最大数を指定できます (オプション)。

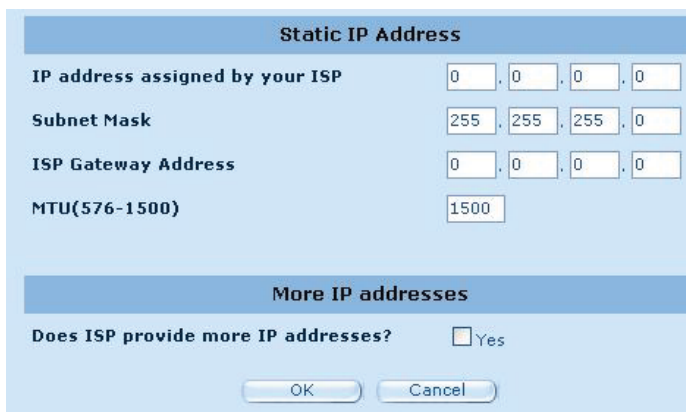
MAC Cloning : MAC クローンの設定。

MAC Address : クローンしたい MAC アドレスを入力。

BigPond : BigPond はオーストラリアのプロバイダです。プロバイダが BigPond の場合は、この項目をチェックしてください。

3.4.3 Static IP

プロバイダより固定アドレスが割り当てられている場合は、割り当てられた固定アドレスと、サブネットマスクを入力し、次にプロバイダのゲートウェイアドレスを入力します。



The image shows a 'Static IP Address' configuration window. It has a title bar with the text 'Static IP Address'. Inside, there are four rows of fields: 'IP address assigned by your ISP' with four text boxes each containing '0'; 'Subnet Mask' with four text boxes each containing '255'; 'ISP Gateway Address' with four text boxes each containing '0'; and 'MTU(576-1500)' with a text box containing '1500'. Below these fields is a section titled 'More IP addresses' with a checkbox labeled 'Does ISP provide more IP addresses?' which is unchecked and followed by the text 'Yes'. At the bottom are 'OK' and 'Cancel' buttons.

IP address assigned by your ISP : プロバイダより割り当てられた IP アドレスを入力。

Subnet Mask : ルータのサブネットマスクを入力。

ISP Gateway Address : ゲートウェイアドレスを入力。

MTU : 通信パケットの最大数を指定できます (オプション)。

Does ISP provide more IP addresses ? : プロバイダが複数の IP アドレスをサポートしている場合は「Yes」にチェックを入れてください。

3.4.4 PPPoE (PPP over Ethernet)

プロバイダより割り当てられた PPPoE の User name と Password を入力してください。通常 Service Name はオプションですが、プロバイダが要求する場合は入力してください。Maximum Idle Time(秒単位)は、インターネットへアクセスをしていない状態でインターネット接続を続ける時間の設定です。設定した時間以上アクセスがないとインターネット接続は切断されます。「Auto-reconnect」を「Enable」にすることにより、インターネットへアクセスしたいときに自動的に接続を確立することができます。

<Disconnect> - 「Disconnect」ボタンをクリックすると、PPPoE 接続が切断されます。

PPPOE

User Name	pppoe_user
Password	*****
Please retype your password	*****
Service Name	
MTU (546-1492)	1492
Maximum Idle Time (60-3600)	300 seconds
Connection Mode	keep-alive

OK Cancel

User Name：プロバイダより提供されたユーザー名を入力。

Password：プロバイダより提供されたパスワードを入力。

Please retype your Password：確認のためにパスワードを再度入力してください。

Service Name：プロバイダが要求する場合はサービスネームを入力してください（オプション）。

MTU：通信パケットの最大数を指定できます（オプション）。

Maximum Idle Time：アイドル時間（秒単位）の設定。一定時間パケットの送信がない（インターネットへのアクセスがない）とプロバイダとの接続が自動的に切断されます。

Connection Mode：PPPoE 接続モード（Keep-alive、auto-connect、manual-on）の選択。

3.4.5 PPTP（Piont-to-Piont Tunnel Protocol）

ルータのPPTP設定を行います。

PPTP

WAN Interface Settings

WAN Interface IP Dynamic IP ▼

MAC Cloning ☐ Enabled

MAC Address 00 : 00 : 00 : 00 : 00 : 00 Clone MAC

PPTP Settings

PPTP Account pptp_user

PPTP Password *****

Please retype your password *****

PPTP Gateway IP Address ▼

IP Address 0 . 0 . 0 . 0

Connection ID 5 (Optional)

MTU (546-1460) 1460

Maximum idle time(60~3600) 300 seconds

Connection Mode auto-connect ▼

MPPE ☐ Enabled

OK Cancel

PPTP Account：プロバイダより提供された PPTP アカウントを入力してください。

PPTP Password：プロバイダより提供されたパスワードを入力してください。

Please retype your Password：確認のために再度パスワードを入力してください。

PPTP Gateway：ご使用の LAN に PPTP ゲートウェイがある場合は PPTP ゲートウェイ IP アドレスを入力してください。ない場合はプロバイダのゲートウェイ IP アドレスを入力してください。

IP Address：PPTP 接続を確立するためにプロバイダより提供された IP アドレスです。

Connection ID：プロバイダより提供される ID です（オプション）。

MTU：通信パケットの最大数を指定できます（オプション）。

Maximum Idle Time：アイドル時間（秒単位）の設定。一定時間パケットの送信がない（インターネットへのアクセスがない）とプロバイダとの接続が自動的に切断されます。

Connection Mode：PPTP 接続モード（Keep-alive、auto-connect、manual-on）の選択。

MPPE：MPPE モードの設定。

3.4.6 L2TP

ルータの L2TP を設定します。

L2TP

WAN Interface Settings

WAN Interface IP: Static IP ▼

IP Address: 192 . 168 . 1 . 1

Subnet Mask: 255 . 255 . 255 . 0

Gateway: 0 . 0 . 0 . 0

L2TP Settings

L2TP Account: l2tp_user

L2TP Password: *****

Please retype your password: *****

L2TP Gateway: IP Address ▼

IP Address: 192 . 168 . 1 . 5

MTU (546-1460): 1460

Maximum idle time(60~3600): 300 seconds

Connection Mode: auto-connect ▼

OK Cancel

L2TP Account：プロバイダより提供された L2TP Account を入力してください。

L2TP Password：プロバイダより提供されたパスワードを入力してください。

Please retype your Password：確認のために再度パスワードを入力してください。

L2TP Gateway：ご使用の LAN に L2TP ゲートウェイがある場合は L2TP ゲートウェイ IP アドレスを入力してください。ない場合はプロバイダのゲートウェイ IP アドレスを入力してください。

IP Address：L2TP 接続を確立するためにプロバイダより提供された IP アドレスです。

MTU：通信パケットの最大数を指定できます（オプション）。

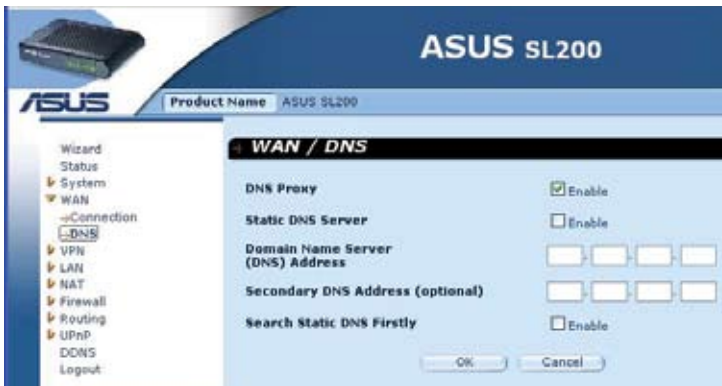
Maximum Idle Time：アイドル時間（秒単位）の設定です。一定時間パケットの送信がない（インターネットへのアクセスがない）とプロバイダとの接続が自動的に切断されます。

Connection Mode：L2TP 接続モード（Keep-alive、auto-connect、manual-on）の選択です。

3.4.7 DNS

DNSはIPアドレスをドメイン名（例、www.waveplus.com）に置き換えるシステムです。

プロバイダは、1 つの IP アドレスに複数のドメイン名を提供します。



Domain Name Server (DNS) Address : プロバイダから提供された DNS サーバ IP アドレスか、ご希望の DNS サーバ IP アドレスを入力してください。

Secondary DNS Address (optional) : 他の DNS サーバの IP アドレスを入力してください。1つ目の DNS で失敗したときに使われます (オプション)。

3.5 VPN (仮想プライベートネットワーク)

3.5.1 Tunnel

インターネット (VPN トンネル) を経由して、ローカルネットワークとリモートネットワークの間に暗号化したトンネルを構築することができます。構築の際は VPN 機能をサポートする VPN ルータを両方のネットワークに設置します。VPN サーバはトラフィックポリシーで許可し、トンネルの両拠点でも有効に設定する必要があります。

ASUS SL200

Product Name ASUS SL200

Wizard
Status
System
WAN
VPN
Tunnel
IKE Parameters
LAN
NAT
Firewall
Routing
UPnP
DNS
Logout

Tunnel Setting

IPsec Tunnel Setting

Tunnel Select: Tunnel 1 (---)

VPN Tunnel: ☐ Enable

Tunnel Name:

Local Secure Group: IP Address

IP Address: 0 0 0 0

MASK: 255.255.255.255

Remote Secure Group: IP Address

IP Address: 0 0 0 0

MASK: 255.255.255.255

Remote Secure Gateway: IP Address

IP Address: 0 0 0 0

Key Management

Key Exchange: Auto(IKE) [v]

Preshared Key:

Connect [v]

OK Cancel

Tunnel Entry：VPN トンネル数は最大 5 本です。

VPN Tunnel：VPN トンネル機能を有効にします。

Tunnel Name：VPN トンネルに名前を付けます。各 VPN トンネルは重複しないようにしてください。

Local Secure Group：トンネルのローカル側の拠点です。自動的にリモート VPN サーバとの接続を試行し接続を維持します。

IP Address：上記の Local Secure Group の IP アドレスです。

Remote Secure Group：トンネルのリモート側の拠点です。リモート側からのインカミング接続のみに応答します。

IP Address：上記の Remote Secure Group の IP アドレスです。

Remote Secure Gateway：Local Secure Group と Remote Secure Group 間のゲートウェイです。

IP Address：上記の Remote Secure Gateway の IP アドレスです。

Key Exchange：キー交換の設定です。設定オプションは「Auto (IKE：自動)」と「Manual (手動)」の2つです。

3.5.2 IKE Parameters



[Phase 1]

「Phase 1」(認証) のセクションでは、認証フェーズまたはフェーズ 1 に関する設定を行います。IKE ネゴシエーションフェーズとも呼ばれています。

フェーズ 1 の目的は、IKE ポリシーセットのネゴシエート、通信相手の認証、通信相手との安全なチャンネルの構築です。フェーズ 1 では終端システムは他の終端システムに対して識別 / 認証を行います。

Operation Mode:Phase 1 には「Main」と「Aggressive」の2つのモードがあります。「Main」を選択した場合、VPN クライアントはこのトンネルに対し有効になり、VPN クライアントが VPN ゲートウェイから VPN 設定情報を取得できるようになります。「Aggressive」を選択した場合は、VPN クライアントは「Aggressive」モードをネゴシエーションモードとして使用し、リモートゲートウェイとネゴシエートします。

Encryption : 認証フェーズで使用する暗号化アルゴリズム (DES、3DES、…)

Authentication: 認証フェーズで使用する認証アルゴリズムです (MD5/SHA1)。

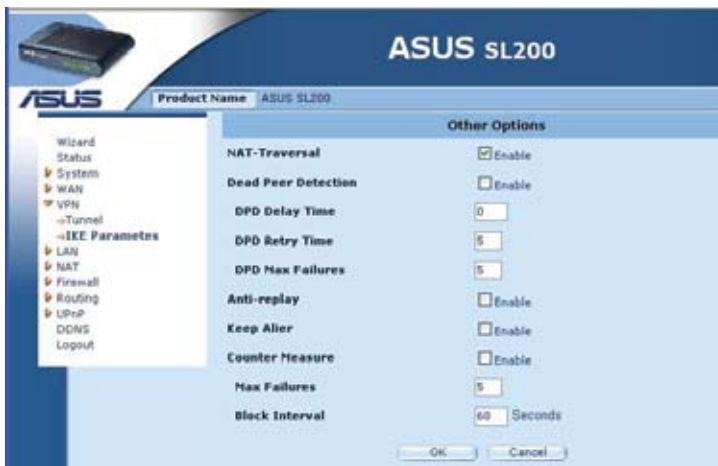
[Phase2]

「Phase 2」のセクションでは、フェーズ 2 に関する設定を行います。IPSec 設定とも呼ばれています。

フェーズ 2 の目的は、フェーズ 1 で認証が確立した後、トンネルを通過するトラフィックに適用する IPSec セキュリティパラメータをネゴシエートすることです。

Encryption : IPSec フェーズでネゴシエートする暗号化アルゴリズムです (DES、3DES、…)

Authentication : IPSec フェーズでネゴシエートする認証アルゴリズムです (MD5/SHA1)。



NAT-Traversal : NAT-Traversal 機能を有効にします。

Dead Peer Detection : Dead Peer Detection (DPD : 切断検出機能) を有効にします。

DPD Delay Time : DPD メッセージを送信する間隔。

DPD Retry Time : リモートゲートウェイから DPD メッセージへの応答がない場合に、再送信する間隔。

DPD Max Failures : ここで設定した時間内に DPD の応答がない場合、DPD 失敗と判断します。

Anti-replay : Anti-replay 機能を有効にします。

Keep Alive : Keep Alive 機能を有効にします。

Counter Measure : Counter Measure 機能を有効にします。

Max Failures : ここで設定した時間内に反応がない場合、Counter Measure 機能失敗と判断します。

Block Interval : Counter measure のブロック間隔。

3.6 LAN

3.6.1 LAN Settings

ルータのゲートウェイアドレスを設定。クライアント PC に動的に IP アドレスを割り当てるために、DHCP サーバを有効にし、リースタイムを設定、アドレスレンジを特定します。

ピリオドで4つに区切られた数字からなる IP アドレスは、前の3つはネットワークで 0 から 255 の数字です。4つ目の部分は、ホスト部分



IP Address：ルータの LAN ポート IP アドレス（LAN クライアントの初期設定ゲートウェイ IP アドレス）を入力してください。

Subnet Mask：LAN セグメント用にサブネットマスクを規定。

The Gateway acts as DHCP Server：DHCP サーバの設定です。

IP Pool Starting Address：DHCP サーバより割り当てられた一番目のアドレスを入力します。

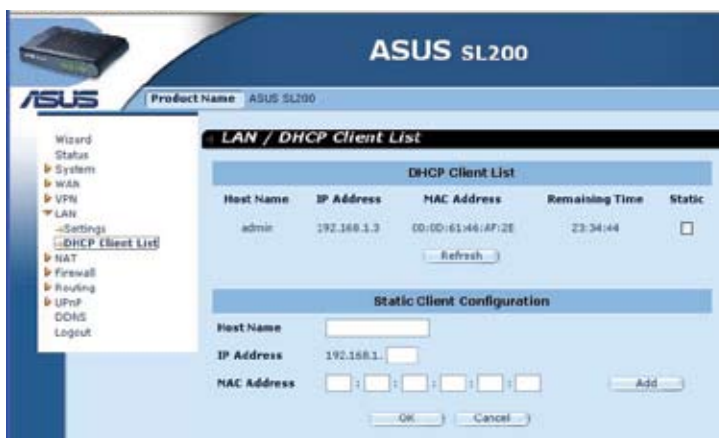
IP Pool Ending Address：DHCP サーバより割り当てられた最後のアドレスを入力します。

Lease Time：クライアントが割り当てられた IP アドレスを利用できる時間を入力します。

DNS Proxy：DNSプロキシの設定。

3.6.2 DHCP Client List

IP アドレス、ホスト名、MAC アドレスで、どのクライアントがルータに接続しているのかを確認できます。



DHCP Client List：ネットワークに接続されている DHCP クライアント（LAN PC）の各情報（IP アドレス、MAC アドレス、残り時間）が表示されます。「Refresh」ボタンをクリックすると、最新の情報が得られます。

3.7 NAT

3.7.1 Virtual Server

ルータを仮想サーバとして構成する場合は、パブリック IP アドレス経由のローカルサイトのリモートアクセスサービス（Web、FTP など）が、プライベートアドレスを使ってローカルサーバへ再設定されます。要請したサービス（TCP/UDP ポートナンバー）によって、ルータがサービスリクエストを適切なサーバへ接続できるということです。

例

ID	プライベート IP	プライベートポート	タイプ	パブリックポート	コメント
1	192.168.1.20	200	TCP	80	Web サーバ
2	192.168.1.12	333	TCP	21	FTP サーバ
3	192.168.1.28	455	TCP	23	Telnet サーバ

	Private IP	Private Port	Type	Public Port	Comment	Enabled
1.	192.168.1.x		TCP			<input type="checkbox"/>
2.	192.168.1.x		TCP			<input type="checkbox"/>
3.	192.168.1.x		TCP			<input type="checkbox"/>
4.	192.168.1.x		TCP			<input type="checkbox"/>
5.	192.168.1.x		TCP			<input type="checkbox"/>
6.	192.168.1.x		TCP			<input type="checkbox"/>
7.	192.168.1.x		TCP			<input type="checkbox"/>
8.	192.168.1.x		TCP			<input type="checkbox"/>
9.	192.168.1.x		TCP			<input type="checkbox"/>
10.	192.168.1.x		TCP			<input type="checkbox"/>

Private IP：パブリックポートナンバーのパケットが送信される LAN クライアントまたはホストの IP アドレスです。

Private Port：プライベート IP ホストのポートナンバーで、パケットが LAN (LAN サーバ、クライアント IP) に入ったときに、パブリックポートナンバーはこのプライベートポートナンバーに変更されます。

Type：プロトコルタイプ (TCP、UDP、Both) の選択。不明な場合は初期設定の「Both」のままにしておいてください。

Public Port:LAN のプライベート IP アドレスホストへ再変更されるサービス (サービス / インターネットアプリケーション) ポートナンバーを入力します。

Comment：設定の説明です。

Enabled：仮想サーバを有効にします。

3.7.2 Special Application

オンラインゲーム、ビデオ会議、インターネットテレフォニーなど、複数の接続が必要なアプリケーションは、NAT が「Enabled」の状態ではご利用になれません。このようなアプリケーションをご利用の場合は、「Trigger Port」アウトゴーイングポートフィールドのアプリケーションと関連のあるポートを特定して、プロトコルタイプに TCP か UDP を選択します。次に、トリガーポートと関連のあるパブリックポートインカミングポートを入力して、インバウンドトラフィック用に開放します。

例

ID	トリガー ポート	トリガー ポート	パブリック ポート	パブリック タイプ	コメント
1	47624	UDP	2300-2400 28800-29000	UDP	MSN Game Zone
2	47624	UDP	2300-2400 28800-29000	TCP	MSN Game Zone
3	61112	UDP	6112	UDP	Battle net

	Trigger Port	Trigger Type	Public Port	Type	Comment	Enabled
1.		TCP		TCP		<input type="checkbox"/>
2.		TCP		TCP		<input type="checkbox"/>
3.		TCP		TCP		<input type="checkbox"/>
4.		TCP		TCP		<input type="checkbox"/>
5.		TCP		TCP		<input type="checkbox"/>
6.		TCP		TCP		<input type="checkbox"/>
7.		TCP		TCP		<input type="checkbox"/>
8.		TCP		TCP		<input type="checkbox"/>
9.		TCP		TCP		<input type="checkbox"/>
10.		TCP		TCP		<input type="checkbox"/>

OK Cancel

Trigger Port : 特定のアプリケーション用ポートナンバーのアウトバウンドレンジです。

Trigger Type : アウトバウンドポートプロトコルの選択 (TCP、UDP、Both) です。

Public Port : 「2300-2400, 47624」のようなアプリケーション用にインバウンドポートまたはポートレンジを入力します。

Public Type : インバウンドポートプロトコルの選択 (TCP、UDP、Both) です。

Comment : 設定の説明です。

Enable : Special Application 機能を有効にします。

3.7.3 Port Mapping

複数のパブリック IP アドレスを内部ユーザーで共有することができます。グローバル IP フィールドで共有したいパブリック IP アドレスを入力してください。グローバル IP を共有するインターナル IP のレンジを入力してください。

	Server IP	Mapping Ports	Type	Comment	Enabled
1.	192.168.1. <input type="text"/>	<input type="text"/>	TCP <input type="button" value="v"/>	<input type="text"/>	<input type="checkbox"/>
2.	192.168.1. <input type="text"/>	<input type="text"/>	TCP <input type="button" value="v"/>	<input type="text"/>	<input type="checkbox"/>
3.	192.168.1. <input type="text"/>	<input type="text"/>	TCP <input type="button" value="v"/>	<input type="text"/>	<input type="checkbox"/>
4.	192.168.1. <input type="text"/>	<input type="text"/>	TCP <input type="button" value="v"/>	<input type="text"/>	<input type="checkbox"/>
5.	192.168.1. <input type="text"/>	<input type="text"/>	TCP <input type="button" value="v"/>	<input type="text"/>	<input type="checkbox"/>
6.	192.168.1. <input type="text"/>	<input type="text"/>	TCP <input type="button" value="v"/>	<input type="text"/>	<input type="checkbox"/>
7.	192.168.1. <input type="text"/>	<input type="text"/>	TCP <input type="button" value="v"/>	<input type="text"/>	<input type="checkbox"/>
8.	192.168.1. <input type="text"/>	<input type="text"/>	TCP <input type="button" value="v"/>	<input type="text"/>	<input type="checkbox"/>
9.	192.168.1. <input type="text"/>	<input type="text"/>	TCP <input type="button" value="v"/>	<input type="text"/>	<input type="checkbox"/>
10.	192.168.1. <input type="text"/>	<input type="text"/>	TCP <input type="button" value="v"/>	<input type="text"/>	<input type="checkbox"/>

OK Cancel

Server IP : NAT サーバ IP アドレスを入力します。

Mapping Ports : NAT サーバが対応するポートナンバーを入力します。

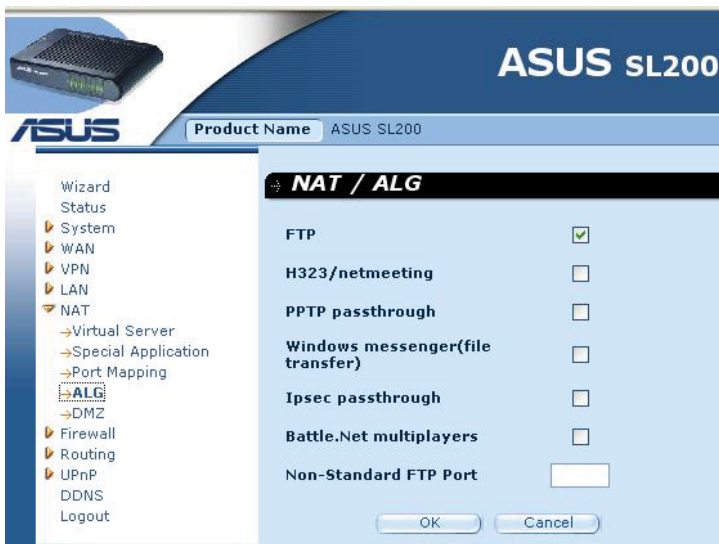
Type : インバウンドポートのプロトコルタイプを選択 (TCP、UDP、Both) します。

Comment : 設定の説明です。

Enabled : ポートマッピング機能の説明です。

3.7.4 ALG (Application Layer Gateway)

ルータの ALG 設定です。



ALG (Application Layer Gateway) : NAT ゲートウェイを通じてアプリケーションを正しく伝達します。

3.7.5 DMZ (Demilitarized Zone)

クライアント PC で、NAT ファイアウォール、または特定のアプリケーションの設定後、インターネットアプリケーションが正常に動作しない場合は、クライアントを無制限双方向インターネットアクセスに解放することができます。ただし、DMZ ホストの IP アドレスを入力し、クライアントを DMZ (Demilitarized Zone) に追加すると、ローカルネットワークが様々なセキュリティの危険性に曝されますので最終的な手段としてのみこのオプションを選択してください。

NAT / DMZ

DMZ Setting

Enabled ☐

Add a DMZ Host

Public IP Address

IP Address of Virtual DMZ Host

Existing Virtual DMZ Hosts

Public IP Address	IP Address of Virtual DMZ Host	Action
-------------------	--------------------------------	--------

DMZ (Demilitarized Zone) : DMZ の切り替えです。

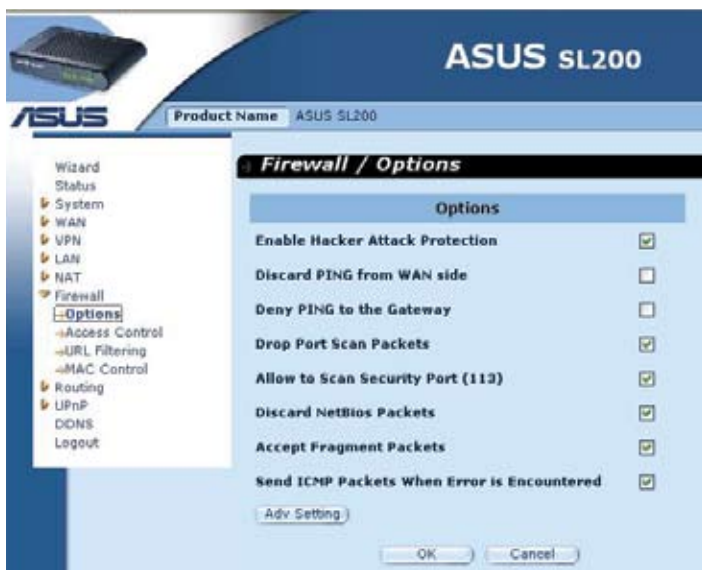
Public IP Address : WAN ポートの IP アドレス、またはプロバイダ提供が提供する別の Public IP アドレスです。

IP Address of Virtual DMZ Host:DMZ ホスト IP アドレスを入力します。

3.8 Firewall (ファイアウォール)

3.8.1 Firewall Options

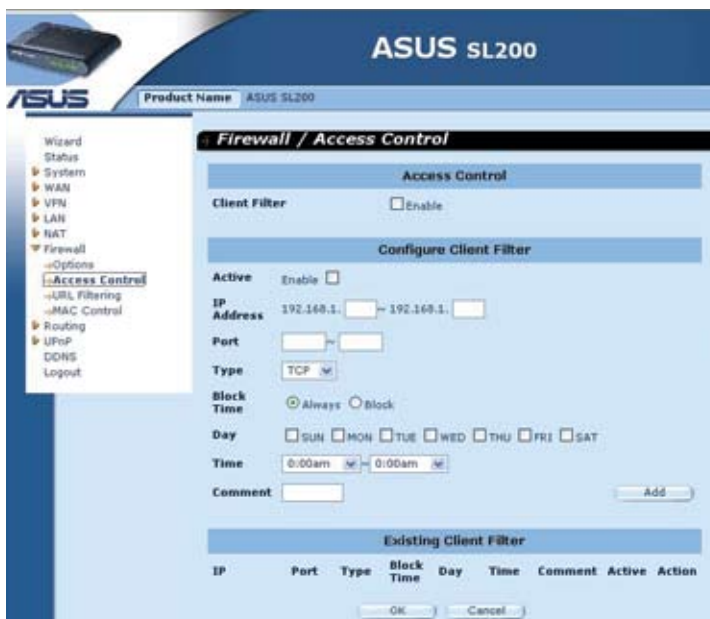
不正な侵入やハッカーからの攻撃等に対処するために、接続パラメータを制限して優れたファイアウォール機能を発揮します。ただし、無制限のインターネットアクセスを要求するアプリケーションには、特定のクライアント / サーバを DMZ 設定にする必要があります。



Firewall Options：ファイヤーウォールがサポートするオプションには、「Enable Hacker Attack Protect」、「Discard PING from WAN side」、「Deny PING the Gateway」、「Drop Port Scan packets」、「Allow to Scan Security Port (113)」、「Discard NetBios Packets」、「Accept Fragment Packets」、「Send ICMP packets when error is encountered」があります。

3.8.2 Access Control

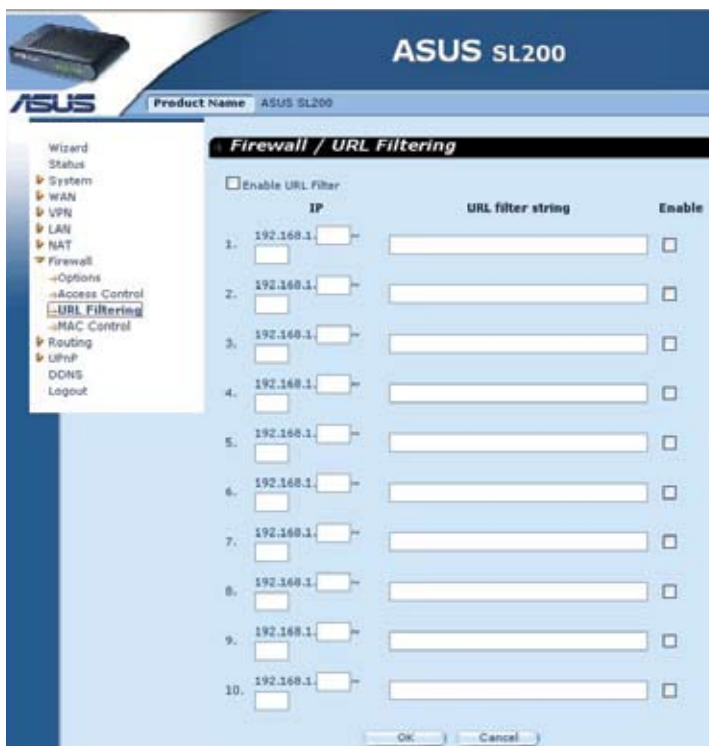
IP アドレス、ポート、アプリケーションのタイプ (例：HTTP ポート)、日付などに基づき、ローカルクライアント用にインターネットアクセスをフィルターすることができます。



例えば、この画面では、アドレスレンジ 192.168.1.50-99 内のクライアントは FTP (Port 21) の使用が規制されています。一方、アドレスレンジ 192.168.1.110-119 のクライアントは月曜日から金曜日、インターネットの閲覧がブロックされています。

3.8.3 URL Filtering

URL Filtering 機能を設定するには、ウェブサイト (www.somesite.com) またはフィルターしたい文字列を含む URLを入力してください。

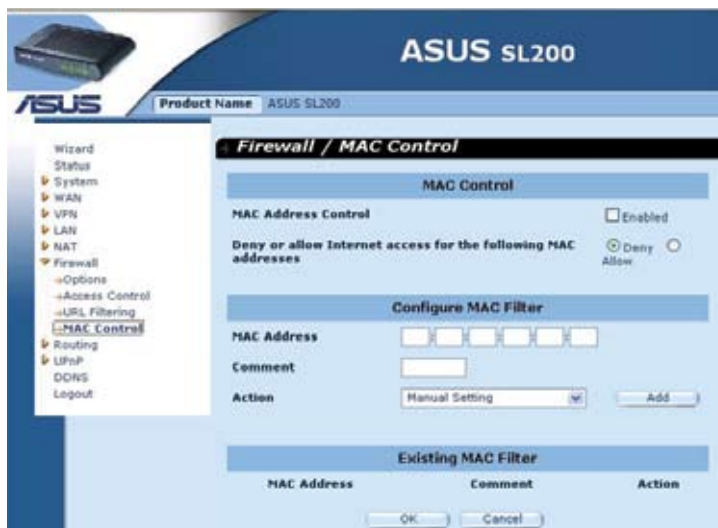


The image shows the ASUS SL200 web interface for configuring URL Filtering. The top header displays the ASUS logo and the product name 'ASUS SL200'. On the left, a navigation menu lists various settings: Wizard, Status, System, WAN, VPN, LAN, NAT, Firewall (selected), Options, Access Control, URL Filtering (highlighted), MAC Control, Routing, UPnP, DDNS, and Logout. The main content area is titled 'Firewall / URL Filtering' and features a checkbox to 'Enable URL Filter'. Below this, there is a table with 10 rows for configuring individual filters. Each row includes a sequence number, an IP address field (pre-filled with 192.168.1.), a URL filter string input field, and an 'Enable' checkbox. At the bottom of the table are 'OK' and 'Cancel' buttons.

	IP	URL filter string	Enable
1.	192.168.1.		<input type="checkbox"/>
2.	192.168.1.		<input type="checkbox"/>
3.	192.168.1.		<input type="checkbox"/>
4.	192.168.1.		<input type="checkbox"/>
5.	192.168.1.		<input type="checkbox"/>
6.	192.168.1.		<input type="checkbox"/>
7.	192.168.1.		<input type="checkbox"/>
8.	192.168.1.		<input type="checkbox"/>
9.	192.168.1.		<input type="checkbox"/>
10.	192.168.1.		<input type="checkbox"/>

3.8.4 MAC Control

MAC Control 画面では、あるクライアント PC のインターネットアクセスを Mac アドレスに基づきブロックします。



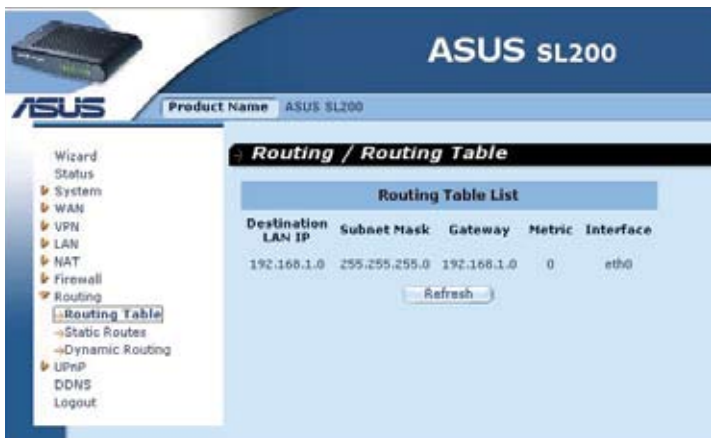
MAC Address Control : MAC アドレスのインターネットへの接続を承認するかどうかを決定します。

Configure MAC Address : MAC アドレスを入力し、接続を承認するかどうかを設定します。

3.9 Routing (経路設定)

3.9.1 Routing Table

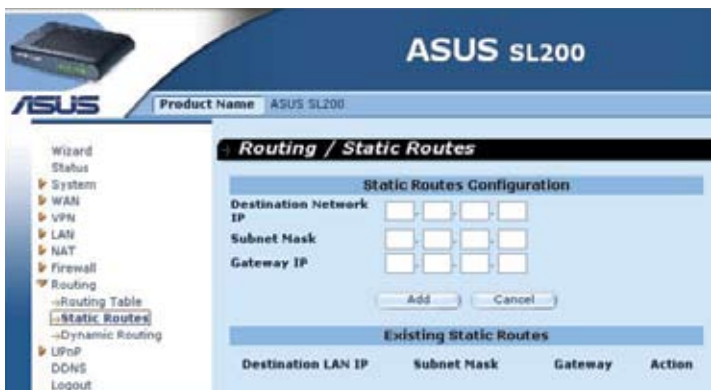
システムの最新のルーティング情報を表示します。



3.9.2 Static Routing

静的ルーティングは予め決定された経路を通じ、ネットワーク情報を特定のホスト、またはネットワークに伝達します。

Destination Network IP：送信先ネットワークのネットワークアドレスです。

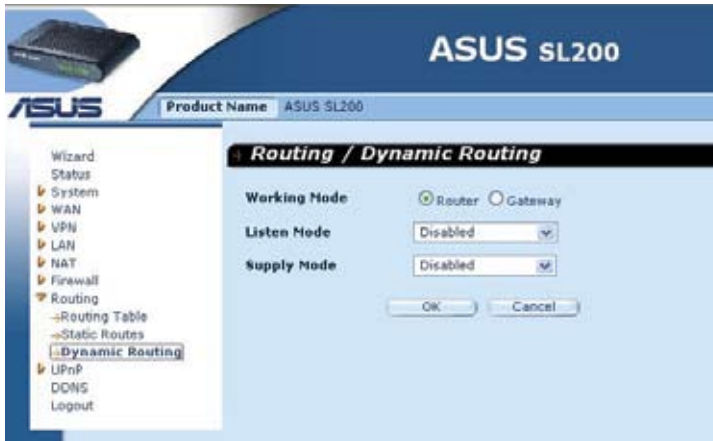


Subnet Mask：送信先ネットワークのサブネットマスクです。

Gateway：送信先ネットワークに対するパスの次の中継点です。このルータが送信先ネットワークへのパスを通じてデータ通信するルータのIPアドレスを入力します。

3.9.3 Dynamic Routing

動的ルーティングでは、経路はルーティングプロトコルで管理され、経路をキャッシュに保存します。従って、静的ルーティングのメンテナンスを自動化できます。本製品では、送信元と送信先の最小ホップ数に基づき、RIP (Routing Information Protocol) を使用してネットワークパケットの経路を決定します。この場合は、ネットワークの配置における物理的な変化が自動的に調節可能です。



Working Mode：ルータをルータとして動作させるか、ゲートウェイとして動作させるか選択します。

Listen Mode：有効にすると、RIP サーバのルーティング情報の受信と、ルーティング情報の更新が可能になります。

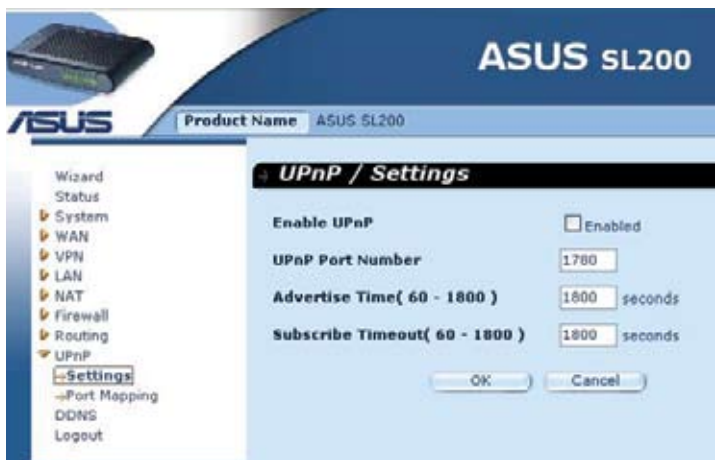
Supply Mode：有効にすると、RIP サーバのルーティング情報の送信と、ルーティング情報の更新が可能になります。

3.10 UPnP (Universal Plug and Play)

3.10.1 UPnP Settings

UPnP (Universal Plug and Play) は、LAN に装備されたデバイスを自動的に検出し、設定します。

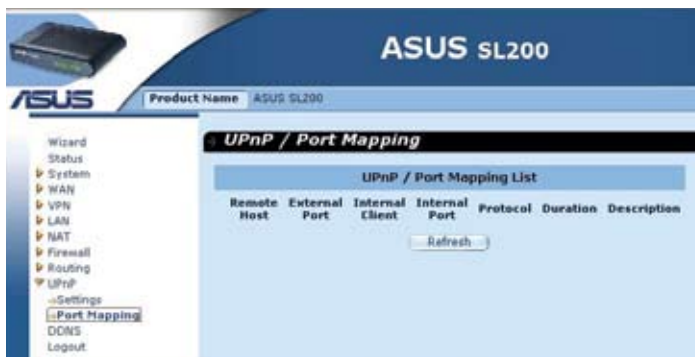
UPnP は Windows ME、XP 以降でサポートされています。また、Plug and Play フォーラムに参加している 400 以上のベンダーのネットワークデバイス、ソフトウェア、周辺機器への互換性があります。



UPnP Settings : UPnP 機能の有効 / 無効の切り替えを行います。

3.10.2 UPnP Port Mapping

この画面には全ての UPnP ポートマッピング情報が表示されます。



3.11 DDNS

3.11.1 DDNS (Dynamic DNS)

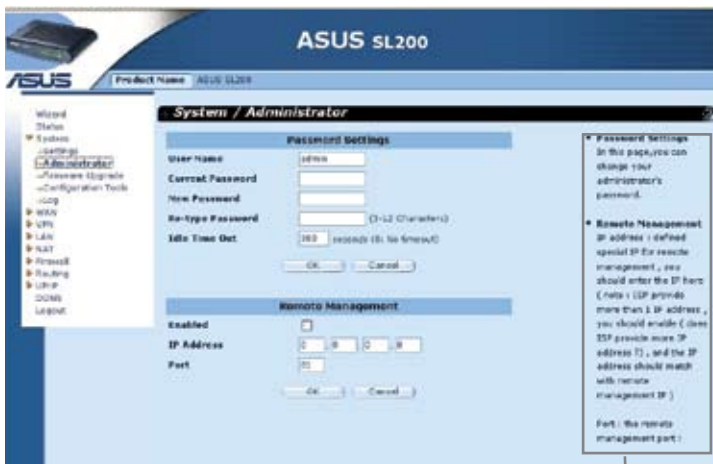
DDNS (Dynamic DNS) はドメイン名をコンピュータまたはサーバと結びつけるシステムです。IP アドレスに変化があったときに DNS の記録を変更することによって、ドメイン名が自動的に IP アドレスを追跡します。



DDNS: DDNS機能の設定をします。

3.12 ヘルプインフォメーション

画面右のヘルプインフォメーションには、ルータの機能の説明や、技術用語が表示されます。



ヘルプ
インフォメーション

3.13 Logout (ログアウト)

ログアウトするには、タスクバーの「Logout」をクリックしてください。



「OK」をクリックしてルータユーティリティからログアウトします。

